



立科町は、小・中学校とも各学校で給食を作る自校給食
汁物は温かいうちに、サラダなどは冷たいまま出すことができます

有難味を忘れることなく、学校教育の場で 大切にしている「食育」を、家庭でも。

しかし、現在は、貧困や食糧不足とは異なる理由（栄養の偏り・食生活の幅広さ・共働き家庭の増加）によって、「食育」の必要性が高まり、廃止論を唱える人は少なくなっています。むしろ、学校給食への依存度が増し、学校給食はあるのが当たり前で、さらに、前述のように「もっと増やせ。」という声さえあります。

現在、全国の小学校の完全給食実施状況はほぼ100%です。しかし、中学校（全国平均80%）は都道府県によって大きな差があります。特に、大阪府（7.7%）や神奈川県（16.2%）は低く、50%前後の県も少なくありません。給食

のない中学校では、当然、弁当持参ですが、毎日、クラスに何人かは昼食を食べない生徒がいるそうです。……見かねた担任教師が用意したパンやおむすびも拒み、「腹なんか減っていいえ。」「お昼は食わない主義だ。」とうそぶく育ち盛りの中学生の胸中には、どのような感情が渦巻いているのでしょうか。

児童・生徒の「知・徳・体」調和のたれた成長のために、立科町の学校給食の有難味を忘れることなく、学校教育の場で大切にしている「食育」を、家庭でも、日々、実践していきたいものです。



食べることは、生きること。

子どもたちの心身が最も発達するこの時期、学校給食は必要な栄養素を満たし、教育としてさらに一人ひとりが正しい食習慣を身につけ、食育を学ぶことが、「命と向き合うこと」なのです。